

日刊 勤労千葉

84. 8. 23
No. 1724

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二七二〇七

中曾根来崎阻止・反戦・原水禁長崎行動に参加

あの上まわしい原爆投下から三十九年目の八月八日と九日、「原水禁長崎大会」および「長崎反戦集会」が開催され、勤労千葉は代表を派遣し共に闘いぬきました。

米帝・レーガンと日帝・中曾根による歯止めをはずした軍大化・核軍拡Ⅱ戦争挑発がますます強まるなか、とりわけ、核巡航ミサイル・トマホークの実戦配備が強行されている現在、反戦・反核の闘いの強化が強く求められています。

しかも、ことあるうにあのにくむべき戦争屋Ⅱ中曾根——軍拡・侵略戦争体制づくりの張本人、日本全土の「不沈空母」化を狙い、靖国神社公式参拝で「英霊」をたたえ、「（原爆）病は気から」「核使用は保有国の勝手」とほざいた反動・中曾根——が、ぬけぬけと出席するというこの長崎集会には、地元の被爆者・被爆二世の人たちをはじめ全国から怒りにもえた多くの人たちが結集して闘われました。参加した代表からの「報告」を掲載します。（編集委員会）

派遣団報告・幹部生

「中曾根、お前の来るところじゃない！」
——被爆者先頭に全人民の怒りをたたきつける——

8月8日、長崎自治会館において、8・9長崎反戦闘争実行委員会（代表伊藤鉄東氏）による「8・8長崎反戦集会」が開催された。

九州を中心として二七〇名が結集し、勤労千葉も8・6広島反戦闘争に続いて決起した。

三里塚、沖縄、忍草、勤労千葉等の代表も連帯のあいさつ

自ら昨年の広島につづき長崎にのり込み、日本労働者人民の反戦・反核闘争を叩きつづし「戦後政治の総決算」にうってでている。

われわれ三里塚を闘う勢力は、今秋10・10を頂点とする三里塚二期決戦の勝利に向けて、今闘争を日帝・中曾根に対する全人民の怒りの最先頭で闘いぬいたのである。

翌、8月9日は、日帝・権力の弾圧体制を打ち破り、早朝より結集し、長崎市内で中曾根来崎阻止・祈念式典弾劾のデモを貫徹し、午後から原水禁大会へ参加していった。

被爆39周年8・9長崎反戦闘争は、世界核戦争の危機のもとで、日帝・中曾根と労働者人民との歴史的な闘いの真只中でたたかわれた。

8・8集会は、伊藤鉄東氏をはじめとして古波津英興氏、石田郁夫氏のあいさつを受け、つづいて三里塚反対同盟の宮本嘉氏より、

「自らの闘いとして戦争反対に起ち、農民人民を虫けらのように扱う帝国主義こそ打倒し、国家暴力を粉碎しなければならぬ。権力に屈せず弾圧を恐れず闘いぬこう。10・10三里塚には、全力で結集してほしい」と力強くあいさつされ、全体で闘う決意を確認した。

つづいて、勤労千葉より、断固とした決意を述べた。

えられ、解放同盟福岡県連並木朝倉地区協議会、婦人民主クラブ協議会より「三里塚闘争に参加したことによって処分をうけたが、断固共に闘う」という決意が述べられた。

最後にインターナショナルを合唱し、10月決戦勝利に向けて決意をうち固め、8・8集会は断固成功を勝ちとった。

反戦・反核、三里塚二期阻止、中曾根打倒で応えるぞ

米帝・レーガンは、核巡航ミサイル・トマホーク配備を強行し、核戦争侵略戦争に踏みきった。日帝・中曾根は、「核使用は保有国の勝手」と公言し、

次に、関西新空港反対同盟と北富士忍草母の会よりのメッセージが紹介された。このあと佐世保の海を守る会の松本氏より、

「戦争反対に起とう。社会党の『草の根運動を世界に』など無力であり、権力と闘い打倒する以外にわれわれの道はなし、その勝利の力は三里塚にある。共に闘いぬこう」と連帯のあいさつをうけた。

今こそわれわれは、日帝・中曾根を打倒しなければならぬ。煮えたぎる怒りを燃やし、三里塚二期実力阻止・反帝大衆闘争の爆発をちとらなければならぬ。すでに決戦は開始されている。反対同盟は、敵日帝・公団の暴力的二期着工策動に対し闘いぬいている。勤労千葉も労農連帯の旗を掲げ、断固闘いぬかなければならぬ。さらに、三里塚闘争・反戦闘争の敵対者革マル脱落派を粉碎・一掃し、10・10三里塚現地集會に3・25をうわまわる決起をかちとろう！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

勝利争闘トットエジ塚三里 粉碎粉革行・調臨

労働学校

才5回 講座
「戦後労働運動史から
＝民同労働運動批判＝」
講師・高島喜久男氏（労働運動研究家・労働学校校長）
日時・8月25日（土）13時～17時
場所・動力車会館（国鉄千葉駅南）
※ 聴講生も受けつけます。お誘い参加して下さい。

つづいて、反戦被爆者の会、被爆者青年同盟より、帝国主義への怒りが訴